わかば

発行所
社団法人
ワカバ会
港区赤羽1番地
TEL(45)0227

つつじ咲く母校で総会開会

第22回社団法人ワカバ会総会

時　四月二十九日（水）午後〇時三十分
所　母校講堂
議事　会計報告　各部報告
余興　手品

模擬店も出まして、おでん、やきとり、みつまめ、スマツク、など、いろいろございますから御利用下さい。つゝじを見ながら楽しくすごしましよう。

観劇会御礼

催物係り

昨年十二月六日東宝劇場で催しました東宝ミユージカルス女優物語観劇会には、クラス委員をはじめ会員の皆様から大変御協力いただきまして誠に有難う存じました。おかげ様で純益十五万円を得まして、母校の視聴覚教室建設基金に全額寄附いたしましたから、どうぞ御了承下さい。今回の催物に対する皆様の御意見を参考といたしまして、次回の催物の案をたてたいと思います。その時にはどうぞ以前にまして御支援を賜りますよう、感謝に合せておねがいいたします。

母校文化祭

五月九日　十日　本校で

母校運動会

五月十七日　芝公園

あいさつ

会長　今野善胤

わかばを出す頃は校庭のつつじが色とりどりに美しいことでしよう。会員の皆様にはお健やかに御精励のこ とと存じます。

先月十五日三四一名の卒業生を送り、今月九日三五〇余名の新入生を迎えました。これで会員数約八千名となつたわけです。進学、就職共に素晴らしく東大、一橋、東工大にも現役で入り、お茶の水、東京女子、津田大など三田の本領を発揮しています。

校舎に囲まれた中庭にすつきりした給食調理室がブロックで新築され通路も改修され庭樹も殖やし大変感じよくなりました。

近々マスコミ時代の新教育の武器である視聴覚教育を本格的に採り入れるためのAVE教室の整備工事に着手いたします。昨年末の東宝劇場の催し、及び本年一月の日比谷公会堂の演奏会に御協力下され多額の寄附を頂き感謝しています。AVEの設備費の不足分に充当させていただきます。四月二十九日の総会を盛大なものにいたしたく御参会願います。各位の御健康を祈つています。

御一人残らず　ワカバ会費　一〇〇円　御納め下さい

高校第六回卒業までの方は必ずお納め下さい。ワカバ会の維持、運営の資源となります。クラス委員の方はクラス会の折などにお集め下さいますようお願い申しあげます。

十年間分まとめてお納めの方には九〇〇円でよろしいのです。一年分づゝの御払込み御めんどうでしたら三年、五年とおまとめの上お送り下さいませ。

◇御送金には同封の振替用紙御利用下さいませ。

母校先生御移動

御転勤
大島洋子先生（三鷹高校へ）
吉本国祥先生（大森高校へ）

御新任
数学科　両東彌彦先生
生物科　浜野幹男先生

昭和33年度ワカバ会便り

四月　わかば第4号発行
四月廿九日　ワカバ会総会
七月廿五日　理事、監事の改選
八月　水泳講習会
八月　名簿発行
十月　わかば第5号発行
十一月一日　中華料理の講習
十二月六日　東宝ミユージカル観劇

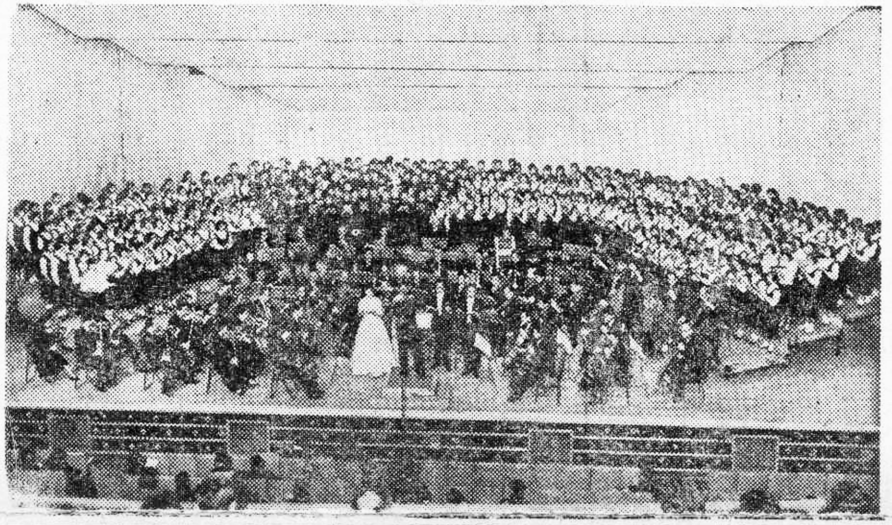
会員数

新入会員数　三四一
全入会員数　八三八九
逝去会員数　四一二
現在会員数　七九七七

住所不明の会員が六三八名ございます。どうぞ不明会員が一人でも少なくなりますよう御協力下さい

母校創立卅五周年記念音楽会

昭和卅四年一月十日、日比谷公会堂で、交響曲九番合唱を演奏。ソプラノ18回卒毛利純子さん、アルト10回卒佐々木成子さん及び渡辺高之助、秋元雅一朗氏のソロを得、日本室内交響楽団に合せ、母校教官鈴木清太郎氏の指揮によつて、母校音楽選択生が合唱した。



昭和33年度　逝去会員

客員　和田　真先生
〃　中西　憲三先生
9ウ　山中　麗子（田中）
10オ　村松　信子（江波）
11エ　郡　和子（浜野）
高7－1　山田　勝巳

名簿

◎昭和33年4月発行の名簿の残部が少しございます。御希望の方はお早くお申しこみ下さい。

一部　二五〇円（送料共）

わかば保育園のこと

お蔭様で保育園は園児のすくすくと育つようにつゝがなく発展しております。この三月廿八日に第二回の卒業式を、四月四日に入園式を行いました。人数もおことわりするのに大童の状態でうれしい悲鳴をあげて居りまして、皆様のお力添えの賜物と感謝しております。どうぞ多摩川に御散歩のおりにはお立ちより下さいますようお願い申します。

母校本年度進学就職状況

進学状況

東大二、教育大五、工大一、一橋大一、水産大一、お茶大四、学芸大十一、東北大一、早大二十一、慶大六、東京女子大十七、津田塾大四、日本女子大六、青山学院大十七、明大十五、中央大八、立教大九、日大七、国際基督大一、学習院大一、明治学院大三、女子美大五、国学院大一、東京電機大一、千葉工大一、芝浦工大一、上智大一、成蹊大二、東京薬科大二、共立薬科大二、星薬科大一、日本歯科大一、東邦医大一、北里衛生科学専門学院一、昭和薬科大一、東京経済 大一、東洋 大一、武蔵大一、亜細亜経大一、女子栄養短大一、多摩美術大二、山脇短大一、杉野短大一、

就職状況

志望者（男六　女一一八）
決定者（男五　女一一七）

勧銀二　興銀三　住友八　第一三、富士五、三菱四、三井四、東京四、協和三、東海一、日本長期信用一、三和一、常陽一、日本信託一、三井信託一

日本生命三、朝日二、三井一、同和火災一、日産海上火災　野村証券一、日興一、経団連一

三井物産九、ゼネラル一、三菱商事五、伊藤忠一、大倉一、明治日立家庭電器一、みすず商会一、日商一、丸紅飯田一、三越一、ヨタ自動車販売二、東洋棉花二、穴水商店一、菱東石油販売一、川崎製鉄二、神戸製鋼一、住友電気工業二、富士電機製造二、古河鉱業一、東洋レーヨン二、東亜合成一、三菱化成一、理研光学一、荒川林産化学一、日立製作所一、園池製作所一、いすゞ自動車三、日本ガラス一、黒沢通信二、横河橋梁二、日新製糖一、北海道炭鉱一、

日本放送協会一、ニッポン放送二、電々公社一、小田急本社一、三菱海運二、三菱原子力一文芸春秋一

コロラドより

アメリカ生活にもなれて

（旧職員）

幡谷和子

ワカバ会から皆様へのお便りの機会を与えて頂き、うれしく存じます。当地の生活はちょうど二年になりますが、住みなれるにしたがい、はじめてアメリカの土を踏んだ頃の新鮮な印象も大分薄れて参りました。又、この二年間の日本の変化進歩もずいぶん大きいことでございましよう。

私の居りますデンヴァーは人口五十万位、目下急激に横へとひろがりつゝあります。ダウンタウはりは一本だけで歩いて三十分位で通りぬける程度、東京とはくらべ物になりません。しかし五六十年前の古い暗い建物が壊され、二十階三十階の新しいビルがだんだんふえて居ります。又ダウンタウンの建物は東京と同様周囲に駐車用の空地を殆ど持ちませんので、駐車場に料金を払い、おまけにうんと歩かねばなりません。それに対して、どんどん広がる新しい住宅地域の所々に新しいショッピング・センターが急速な勢で出来て居り、瀟洒な明るい建物のスーパー・マーケットやデパート、銀行などがそこに集り、あきれる程広い無料駐車場があり何千台の自動車を自由に置かせるようになつていますので、この方の繁昌ぶりは大変なものです。この現象は全米の都市どこも同様の由です。町の西方には年中雪を頂いたロッキー山脈が近くにみられ、規模はちがいますが信州の松本を思い出すような所です。郊外へ出ますと黄色つぽい土がはてしなく平らにつらなり小麦畑の多いカンサス州へとつゞくあたり地平線はかすんだようにしか見えません。樹木も殆どない荒地は牛や馬の放牧場になつているのです。汽車からはじめて見たネヴァダの沙漠や、メサと呼ぶテーブル状の老年期の岩山が行けどもつゞく風景はうるおいにみちたこんもりした日本の自然とあまりかけはなれていて全く圧倒されるようでした。この人気のない乾燥した風土は、一木一草が人間の歴史とつながりあつている島国の人間には又となく新鮮に感じられます。

コロラドは州になつてまだ百年に足らず、ちょうど黄金を求めて西へと進んだ探険家達が今のデンヴァーのダウンタウンのあたりに金鉱を発見したのが一八五九年のことでした。今年はこれを記念した rush to the rockies 百年祭の行事が賑やかに行われて居ります。市中の博物館には、これら百年程の歴史を物語る当時の衣裳、古風なピアノやミシン、台所道具、医療器具や新聞その他が夥々と並ぶ一方、広い室をいくつもとつておびただしい数と種類の鉱石の見本が並び、ユタやコロラドから発掘された六億年以上昔という中生代の恐龍の骨をたくさんに陳列してあります。模造品で組立てた実物大の巨大な爬虫類を色々見ることもできます。

日本では戦後は古くからの習慣は極度に軽んぜられ、正月料理も洋風にする人も多いといわれますけれども、クリスマスやサンクス・ギヴイングなどが近ずくと、マーケットには七面鳥が山のように入荷し、真赤な生の クランベリーや種々の木の実、干した果物が並べられて、主婦がしきたりに忠実な古風な料理の準備に忙殺される風景を見て、私は師走の町のあの黒豆やかずのこや餅つきの気忙しい気分をまざまざと思いうかべました。ことに十一月末のサンクス・ギヴイングは、一六二一年メイ・フラワー号でアメリカ東海岸に上陸した人々が最初の収穫を神に感謝するお祭を行つたことにもとずく純粋にアメリカ的な祭日で今でも七面鳥やかぼちゃのパイなどに三百年前のかれらの祖先の労苦をしのび神への感謝の日としています。ふつうのアメリカ人は、日本が千年以上も古い歴史をもつていることを知ると大変感心いたします。

戦後多数のアメリカ人が日本へ来て、日本のことは相当伝えられているわけですが、事実は大部分の人は日本のことなど殆ど何も知りません。地図のどのへんが、どんなに小さい国で多くの人口を持ち生活に苦しんでいるか。知るよしはないのです。ですから汽車や自動車があるか電話があるかとかどの位きかれたことでしょう。世界一のテレビ塔があることも流行のドレスをアメリカ人より多勢着ていることも、隙間風にふるえてこたつで冬を送る庶民の生活のことなど想像もつかないでしょう。スキヤキやカブキや人力車がせいぜい彼等の知る日本、又安物に代つて、高級輸出品か市場に出て日本の高尚な趣味が理解されようとしているのはうれしいのですが、日本人の大部分の生きるための苦闘を知らなければ片手落ちではないでしょうか。

アメリカでは貧民用アパートにも暖房設備のない所はない位で、年中木綿の安い衣類で過し、働くのに快適で、たくさんの下着を買う必要はないしこんなにありがたい、ことはありません。父親の役目で寒い朝ふるえながらストーヴをたきつけていたのは、四十年前のことで、今は夜昼自動的に温度を保つ設備を用いて居ります。

アメリカへ来て外国人ーたとえヨーロッパ人でもーがとまどうのは、アメリカ人が大変気安く、ファースト・ネーム（姓でなく名）を呼ぶ習慣です。ひどく改まつた時以外は、日常職場での同僚間や友人同志、近所の奥さん同志など皆これです。私も、これにならおうと努力しますが、相手の年令、地位など一何と日本的なことでしようーが自分より上だと意識するとどうしても口から気やすく名が出て来ないのです。最近は六十位の婦人に「今日わ、パール」などと言えるようになりましたが。彼等にと つて長幼の序など よりも親愛感の方がずつと重要なのでしよう。中でも驚くのは、子供が、親を呼ぶのに「お母さん」といわずに「ナンシー」などと名を呼ぶことです成人した息子でも、我々には気になる位なのに、十才位の子供にまで、この風潮が及びつゝあるとのこと、さすがのアメリカでも識者は反対して居ります。雑誌の特集などにも「親は決して子供の友達ではない。親である。」などと親の権威、あるいは、責任をよびさますべくよびかけて居ります。日本では相手を呼ぶのに微妙な手加減を必要とします。又私的な場合でも、「社長」とか「校長」とか言つて相手を呼ぶ習慣は、思えば滑稽な気がいたします

日本人とわかると間貸しを断る人がいるのは珍しいことではありません。この町でも黒人や東洋人がなかなか住めない高級な住宅地域がいくつもあります。アラバマの黒人指導者の言葉のように、少数民族は劣等感をすて自ら向上して敬意をかちとらねばならない、それには忍耐強い時間を要するものにちがいありません。われわれもかつて朝鮮人だ何人だといつてきらう者は少くなかつたのですが

終りに、人権問題は別としてアメリカの中で私のきらいなことをあげますと、母親が子供をおいて働きに出ると、これは日本人からは貧乏のためとはとても見えません。母親の留守、子供の不良化、家庭の破壊ーーという傾向、それから十二才位以上の女の子の大部分は口紅、中にはアイシャドウまでつけて学校へ行くこと、からだばかり発育して頭の空つぽな少年少女が多いことなどです。すきなことは公僕がどこまでも文字通り納税者の公僕であること、安心して人を信用できるよう、一方で告訴がかんたんに行われて、損して泣きね入りなどしないですむことこれらは勿論日本と比較してのいみです。それから贈り物には心をこめた礼状をすみやかに送るほか形式的なお返しなどする習慣のないこと、吉凶どんな時も同様で、私共も形式化したお返し制度は正月料理より先に改めたらどうかと考えて居ります。よい家庭の子供の言語作法のしつけは、この頃の日本よりずつときびしいものですでは皆様お元気で、さようなら

「ダミアとモンマルトル」

石井好子（13イ）

岡本かの子女史の「巴里の唄うたい」という随筆の中に「ダミア」という章がある。

「うめき出すというのがダミアの唄い方の本当の感じだろう」とあり

「運命に叩き伏せられたその絶望を支えにしてじりじり下から逆にこき上げて行く、もはや斬つても斬れない情熱の力を感じさせる」

「ミスタンゲットを取り去つてもミスタンゲットの顧客は他に慰む手段もあろうダミアを取り去る時ダミアの顧客に慰む術は無い」と書いている。

ダミアは戦後始めて来朝したシャンソン歌手として皆様の御記憶にも新しい事と思う。

ダミアの歌いぶりを時代がかつた大芝居と批判し、声も荒けづりでうるおいがないと云う人もあるが、その反対にダミアでなくてはという絶対的ダミアファンもいるくせのある声であり歌いぶりであるから聞き方の好き嫌いもはつきりするが彼女程個性のある歌手は後にも先にも出現しなかつた事は確かだ。

現在六十才を越えた彼女はモンマルトルに小じんまりした二階建の家を買い一人でのんびりと暮している。

食いつめて養老院入り、等といふ噂は、日本だけでなくパリですら云われているが実際は悠々自適特別贅沢もせずモンマルトルに住んでいる古い芸人達と会つたり友達同志食事をしたり老後は何の悔いも残らずと云つた楽しげな隠居ぶりだ。

ダミアの家へゆくと必ず犬をつれたフランソワーズという美しいおばあさんが現れる。

「あの人はそりや美しかつたわ、女優だつたの」とダミアが語つた

一時は美貌の映画スターとして男性達にもてはやされた彼女は贅沢に浮身をやつし、年老いた今は誰からもかえりみられずモンマルトルの小さいアパートに犬と淋しく住んでいるのだそうだ。

「生活費はあるの」ときいたら、それが面白い事に彼女の若かつた頃近所に住んでいた肉屋の小僧さんが彼女にあこがれて、今彼は肉屋の親父さんだけれど、フランソワーズに毎月生活費をとゞけてくるのだそうだ。二人は何の関係もなかつたのに、肉屋さんは私が若い頃あこがれていたフランソワーズをみじめな生活の中で死なしたくないというのだそうだ。

「モンマルトルつて好いでしよう。こんな話しはモンマルトルでなくてはないのよ。そして、こんなモンマルトルも今はだんだんなくなつてしまつた」そんな事を語る時のダミアは悲しそうだつた。

或初夏の夕暮れ、ダミアとフランソワーズと、私の三人はダミアの家からだらだら坂を上つて、モンマルトルの丘の上迄散歩をした。キャフエやレストランの主人が、声をかけた「マリーズ！」マリーズはダミアの名前だ。彼女は、そんな時はればれとした顔で、嬉しそうだつた。ユトリロの住んでいた、アトリエの前を通つた時、フランソワーズが云つた。

「私ユトリロと好く知つてたわ、こゝにも遊びに来た事が、あつたわ」それから、あの人は、どうしているこの人はと二人は思い出話しに花を咲かせた。はなやかな過去を持つた、二人の老女、モンマルトルの丘は、優しくその二人を包んでいる様に私には思われた。

カルネアデスの板

（高7の2）

岡部元英

ギリシヤの哲学者カルネアデスは「大海で疲労の余り何かにつかまらなければ溺死するような状態で漂流している二人の辺りに、一人だけが辛うじてしがみつけ得る一枚の板が流れて来た場合、相手を沈めて自分の生命を保持することは正しいことかどうか」という問題を提起した。

この問題は刑法学の違法論の分野で特に激しく論議され続けて来たものであるが、本稿においてはこの問題に関する刑法学的評価は行なわず、唯この問題の契機として人間のより真実な生き方というものを少しばかり考えてみようと思う。即ちカルネアデスの板にしがみついて転々漂流し確として定まらない人間存在を、より明確な方向において見極めようと意図するものである。

この問題については次の四つの場合が考えられる。即ち第一は相手と共に自分も板にしがみつき共に海中に没していく場合であり、第二は相手と共に自分も板にしがみつかずに共に沈んでいく場合であり、第三は相手を沈ませ自分が板にしがみつく場合であり、第四は相手に板を譲り自ら沈んでいく場合とである。

第一の場合は第三の場合と同様に自分の生命に対する強烈な肯定であるが、作為的に相手の生命を否定するという点に於て第三の場合と異なる。然し自分の行為の結果が如何なる結果を惹起するかの考慮を欠いた盲目的な自己生命の肯定という特徴を有する。

第二の場合は一人のみしかすがり得ない板が漂着して来たという運命に従順であり、互の生命に対する肯定も否定も放棄した価値判断を超越した行為である。

第三の場合は他人の生命を否定しよつて自分の生命を肯定した、むしろ人間の本性に忠実であるかとも思える強烈な利己的行為である。

第四の場合は道徳的当為としては至上のものであると我々の常識は判断するかも知れないが、然し真摯に自分の生命を否定し相手の生命を肯定するということが偽善ではなく人間の本性がはたして許容するものであろうか、疑問が抱かれる行為である。

生命の尊貴は全地球よりも重く何物にも換え難い価値である。又生命の維持が相手に対する相対的実力の優勢という点に根拠を置くということは何と不安なことであらう。生命は実力に根拠を置くものではない筈である。故に限界状況に於ても相手の生命を否定することは否定されなければならない。従つて第三の場合は認め得ない。

又相手の生命も尊貴であり不換性のものであると同様に自分の生命も、尊貴であり不換の価値である。自己犠牲は感傷によつては贊美されうるかも知れないが、本質は偽善である。かつて、タイタニツク号が処女航海の折氷山に衝突し乗客が避難しようとした時、最も醜い行動をとつたのも外ならず牧師であつたということは、この間のことを如実に物語つている。従つて第四の場合も私は否定する。人間は理性的存在者である点に於て他の生きとし生けるものより区別され得る。甲斐なきことを盲目的に為すことは愚かなことである。従つて第一の場合も私は採りたくない。

生命の尊厳に対する畏敬、人間の本性に対する忠実、生命えの盲目的欲求の愚かさ、これらを止揚した上に立つ第二の場合を、私は選ぶ。充実した生命の燃焼は、たとえ短くとも長い空虚な生命の存続よりも優つていると信じたい。

以上、私見を述べて来たが、皆様ならば如何に考え行動しますか。問題解決の道は、単一ではない筈です。蓋し人生が多様であるように。

以上。

夕陽をあびて

茨淑子（5エ）

冷く晴れたある冬の日の暮近く、私は知人を訪ねて都心にあるビルの三階の窓際に立つて居た。

目もくらむばかりの夕陽が、遠い空の果から、遠く近く林立するビルの窓々に惜しみない赤光を流して居る。息をのむ様に見入つて居ると、後で、

「奥さん」と呼ぶ声がした。ふり返ると顔見知りの青年が立つていた。

「〇〇さん、もうすぐお見えになります。どうぞおかけになつて」

「はい、余り夕焼がきれいなものですから。冬の夕焼つて、本当に美しいものですね。」

「そうですね、でも寂しい色ぢやありませんか。」青年はためらいもなくそう云つて、チラリと真白な歯を見せて無邪気に笑つた。その笑顔は全くかぎりのないものだつた。

「さびしい？そうでしょうか」

私は自分自身に問い返す様な気持で云つた。何か虚をつかれた様な気がしたのである。どの季節にも夕映は全く美しい。けれど私には冬の夕映が一入心にしみるのである。木枯の鋭い叫びの中に昏れかゝる時、或は万物が巨大な氷柱の中にある様に凍りついたまゝ物音もなく一日が終ろうとする時。私はこの冷ややかな赤光の中にいてそのきびしい美しさに打たれ、限りない憧れと、安らぎとを感じるのである。雲のたゝづまい、立木のかげ、遠い山々、街の空を様々に区切る建物の稜線、すべてが一そう親しげに思える。さびしい色等とは思つても見なかつた。見る人の心ごゝろか。しかし、真に寂しい色なのかもしれない。一日という時の生命の燃えつきんとする色である。私は知人に聞いた事を思い出した。この青年には新婚の香のまだ抜け切らぬ美しい妻があり、可愛いさかりの幼児も居るという事を。この青年は今幸福に満ちあふれて居るのであろう、長い人生に洋々とした希望もあろう。ほころびに近い寂光に心ひかれるいとまはないのである。私はほゝえましさを感じた。

この凍てついた夕陽の壮厳は、やはり一人しづかに見まもろう、と思うのは、いつの間にか歩んだ四十余年の人生の哀歓によせる私の感傷であろうか。

△　△　△

保健医師の記録

菊池勢津子（19ア）

今から八年前私共は張切つて大学の内科教室に入局し、研究していた。二年後家の都合で研究を中断し岩手県宮古保健所に務める事になつた。医局の先生方は保健所なんかに務めると医者の屑になつてしまうから病院に務めなさいと再三言われた。私も内心そう思つていたが仕方がなく、こうして私は治療医学から予防医学へ方向を転じた。

受持は一市二町二村、人口は十万人。お手許に地図がありましたら岩手県宮古市週辺を御覧願いたい沿岸部とあとは山又山の地方である。まず驚いた事には岩手県は乳児死亡率が多く全国第一位に悪い事を知つた。私の管内をみると都市はテレビもみたり、文化生活を営んでいるのに、ちよつと農山村部に乳幼児検診に行つてみると、赤ちやんはとても発育が悪い。

医「この赤ちやん、本当は六ケ月だけど三ケ月の体重しか無いわよ母乳不足と思うけど」。

母「沢山出ますけど。」

医「おかしいわ。何回飲ませてるの。」

母「一日三回です。」

医「赤ちやんわね大人と同じに三回じや駄目。五、六回は飲ませなきや。どうして飲ませないの。」

母「無言……。」側から保健婦が

「先生田舎のお嫁さんは朝飲ませて、後は山へ働きに行つて夕方迄帰つて来られないんですよ。その間は米穀を煮てのませるんです。」との事。粉乳はお金がかゝるから姑が買つてくれない。又離乳期の赤ちやんにお粥味噌汁しか食べさせていないので卵を食べさせてというと鶏は飼つて卵はあるが、あれは売物でお祖母さんの収入になるのだそうだ。田舎では姑の言う事は絶体的。こんな事では何時迄も駄目だと思い、その対策として姑嫁の会を開き育児法を話し、他人の家の話も聞かせ遂次改善されて来た。

又お産の時の状況を昭和三十二年の統計でみると、市は問題ないが二つの村では医師助産婦にとり上げてもらう者は少く、四八％が其の他の分娩である。その他の分娩とは、祖母、夫又は自分でとり上げた事を意味する。ひどい時はお産の時夫も祖母も山へ行つて留守、隣も遠いし自分でとり上げた等というのも偶々ある。せめて助産婦にかゝればよいと思うが、姙婦はかゝりたくても姑が、分娩料三千円なんて、とてもとてもと言う由で驚き入る。

そこで、私は村役場に働きかけ助産所を設置し、姙婦がそこへ行けば安くしかも一切を世話してもらい、安心して子供を生めるようにしてやりたいと念願している。東北の交通不便な土地で悪路になやまされ、又根強い因襲と戦いながら、事業を進めて行くのであるが、想像以上に大変である。しかし、私のような縁の下の力持ち的存在の医者が居てもよいのではないかと思つている。

会館を御集会に……

和　室　二十人位
洋　間　二十人位
小集会室　三十人位
広　間　百五十人位

〇…クラス会にはガス、水道、備品損料としてお一人二十円お願い致します。お集りに必要な食器は備えてございます。

〇…詳細はワカバ会館事務所にお問合せ下さいませ。
電話　三田（45）〇二三七番

〇…お集りの折のお食事お茶の御用は左記のお店（三田通り）が御注文に応じていろいろと便宜をはかつてくれますから御利用下さいませ。

天ぷら、うなぎ	岡田屋	（45）七二七八番
和洋菓子	福茶屋	（45）六六〇四番
おすし	松すし	（45）五〇三六番
おそば	まるが	（45）四五二〇番
割烹	むらい	（45）六七七一番
洋食	末広	（45）一三九六番

会館に宿泊設備も完備しております

〇…お泊り御希望の方は一週間前に宿泊予定日、日数人数をワカバ会事務所まで御申し出で下さい。

宿泊料　お一人一泊　二五〇円

一丁目一番地

尾崎勝子（13イ）

三月一日日曜の「一丁目一番地」のスタヂオで、志賀高原へスキーに行こうと誘われる、火曜日の一丁目の録音が済めば後土曜迄定期の仕事は無いので、気分転換には丁度良い機会、早速道具の手入やお菓子を買込み、水曜の夜仕事の終つた人達と、一行より遅れて長野に向う。

翌朝七時丸地のバスの終点に降り立つと、暖冬は志賀の山奥も変りなく、例年に比べまるで雪が少い。翌日は午後遠雷の音が聞えたと間も無く、大粒の雨が降つて来る始末、私達も残念乍ら早々に宿へ引き揚げねばならなかつた。

土曜日即興劇場の本読が有るので金曜の夜行で帰える、朝四時五十五分上野着、急いで家に帰えり一寝りしようと思う、ところが家に帰えると、電報が来ていて、土曜の夜からの名作劇場の仕事の知らせ、これで又当分忙しい事になつてしまつた。皆で汽車の中で、お互いのスキー帽子を冠り合い、似合うの似合わないのと笑い転げた事が、懐しく思い出される。

日曜は朝十時半から三時迄一丁目一番地月火水分の録音、五時から十時迄名作劇場「チップス先生さよなら」の本読。

月曜は二時から即興劇場の本読、三時に終ると先日御馳走になつた方のお返しに銀座のコロンバンのお菓子を買いに行く、帰えつて顔を直し、第一スタヂオの調整室からガラス越しに見るともうスタヂオにはお客が入つて、渋沢秀雄、長崎抜天、小西得郎の三先生が並び藤倉さんの前説が始まつて居る。その日のお客の出演者によつて大変面白い録音の取れる日と、そうでない日とが有る。一番始めのお客がよくしやべつて呉れると後の人も大体つられて、こちらに乗つて来てくれる。七時に無事録音を終る。十時から又名作劇場、今日は第一スタヂオで音出しのテスト。スキーから帰えつてろくに休みもしないのに連日仕事だから、大分疲労が溜つて来たらしく、しきりに眠い。

火曜一時から一丁目の木金曜日分の録音を取り、午後十時半から名作の本番、録音を取り終つたのは午前三時十五分。また真暗な夜明の街はさすがに車の数も少く、寝静まつている。

原稿募集

次回〆切　十月五日
字　数　一、〇〇〇字程度
研究発表などは字数ふえても結構。

年に二回発行のこの「わかば」をみんなで育ててまいりましょう。どうぞ御希望、御批判を御遠慮なくおきかせ下さいますようお願い申しあげます。感想、旅行記、和歌、俳句、研究発表などなんでも結構です。

HIS MASTER'S VOICE

技術に生きるビクター製品……

テレビ、ラジオ、電蓄、レコード、テープレコーダー、拡声装置、ルームクーラー

ビクター

黄ばんだ生地がまっ白に
色、柄物は美しく
☆ナイロンにナイロン用白ダイ

みやこ染の螢光染料
白（しろ）ダイ
最高品質…¥50 ¥100

ウエディングのお話しのつづき

戸沢　タミ

（2D）

十月号で、お話しました つゞきとして、今日は花嫁に附添う、ブライドメイド、御母様、又レセプシヨンに招かれた方々の為の服装のおはなしを致しましよう。

教会で行われる西洋式のウエディングにはブライドメイドが重要な役割を演じます。ブライドメイドは多勢な程その家の繁栄が窺われるわけで、資格としては花嫁の既婚の親友が選ばれ、普通は二、三人です。服装は足のくるぶし迄のスカート丈のいわゆる、バレリーナレングスのワンピースが、一般的で、色も季節によつて多少の相異はありますが、大体ピンク、ローズ、ブルー等の華やかなもので、一人以上の場合は同じデザインで色ちがいに仕立てると引立ちます。

ボンネツトは必要ですが、時にはドレスと共布でヘアバンドを作る事もあります。グリーンは不吉な色として儀式には避けます。この時のブライドメイドの服装に関する費用は花嫁側の出費となります

華やかなるべき結婚式に一段と華やかさを添えて、新しい門出の二人の仕合はせを願うのが、招く側招かれる者の礼儀というものですが、しかし過ぎて品を落さぬ事が肝要です。日本では一般に礼服は黒と云われますが、結婚式には白、黒、赤、三色を避けるのが常識です。白は花嫁と競ふ色、黒は喪に通じ不吉、赤は刺戟的で人の目を集中し過ぎるきらいがあるからです。そこでお母様はその御年配からいつてもベーヂユ、ブルー、グレイ等の落付いた中にも多少華やいだ色彩のものを選び、帽子はイースターボンネツト又勝るとも劣らない花かざり、ベール等で飾つたものをつけ、胸にはコルサーチでもつけませう。靴、手袋等に至る迄お母様は一切の不吉な黒を避け、ドレスと同系統の色で品よくまとめるのが賢明です。

次に一般、お招はれの方々は、お嬢様ならピンク、ブルー、クリーム色、奥様ならパステルカラーの無地のものを選んで頂き、靴は黒でも差しつかえありません。マテリアルとしてはスイス、フランス辺りのデリケートなレースが最高でしかも四季を通じて着られるので便利ですが、日本には安くて美しい絹がありますからシンプルなデザインで仕立て、あとは胸につける生花とか宝石とかで調子をとつていくのが聡明な方法です。

教会の式に参列の場合はボンネツトは必要ですが夜の御披露にはかぶりません。但しガーデンパーテイー等昼間の御披露のは美しい帽子をかぶつて敬意を表します。

結婚式は厳粛であるべきですがもう私共の古い時代の様な涙の結婚はない筈ですから、招かれた人は華やかに装い、愛し合う二人の前途を祝福してあげたいものです。

さて終りに日本のしきたりである花嫁衣裳の色なおしを、ウエデイグドレスの場合でもカクテルドレスに着換える方がありますが、花嫁は御披露の席では、帽子「普通ベールと呼びます」を取つただけでそのまゝ食卓につき、招いた方々と記念すべき時を共に持つべきですから、花嫁も、お客様も、御友達のお祝辞も放つて途中で着換えの為に消えてなくなる等ということは西洋式ではもつての外です。もう女性は飾りものでも人形でもない筈です。

或る死

根本はる子

弁護士（7オ）

事件は特許庁を定年退職した一老人・と言つてもまだ五十六才だが・の不慮の死から始まる自転車に乗つていた老人は、老人の自転車を追越そうとした他の自転車にひつかけられたのである。云う迄もなく老人は道路（京浜国道）に転倒し、脳出血により間もなく死亡したのである。

見方によつては月並な、世間あり来りの事件であるが、又見方によつては大きな問題を幾つも含んでいる事件である。

一、生死と云う謂わば人生哲学の問題　二、五十五才の定年制の可否の問題、定年退職後の謂わば老後の生活問題　三、日増に激化する交通地獄問題、等々。

しかしそれ等の問題はとも角として以下現実問題として右事件が如何に処理されているかを簡単にみてみよう。

一、老人の遺族は妻と娘一人である。妻は五十四才、娘は二十一才で何れも無職である。蓄えもない老人は僅かばかりの恩給で娘の結婚資金はもとより生活資金にさえ事を欠いた。老人はそのためにこそ、何かと仕事を見付けては若干なりとも収入を得べく自転車であちこちと飛び廻つた のである。二、遺族二人は生活資金並びに老人死亡による諸出費、病院費用、葬式代等々を得べく慰籍料を加害者（自転車をひつかけた人）に請求した。加害者は十九才という若輩であり或家具商の単なる被傭者に過ぎず到底慰籍料を支払う資力がなかつた。三、遺族等は加害者の使用主（家具商）に対して慰籍料を請求した。四、使用主は老人に過失があつたとか加害者が可哀相だとか（私が仮に慰籍料を支払つたとしても、其は加害者の給料から差引いて返済して貰うのだから結局は慰籍料は加害者本人が支払うことになるので）とか種々の理由をつけて慰籍料の支払を拒んだ五、こゝで本来なら裁判になるのだが、この事件は幸い使用主が折れて裁判にならず、使用主が遺族等に若干の慰籍料を支払つて示談が成立した。然し可哀相に加害者は過失致死罪という罪名のもとで今検察官の取調べを受けている。

ところで私達の女学校在学当時といへば、何かロマンチックな夢ばかりを追つていてまるでシャボン玉の様にフワフワしていたものです。（或は私だけだつたかも知れませんが）。

然し世間と云うものはロマンチツクどころか案外法律にからまる事件の多いものです。それも身近に。前記の様な事件だけが事件ではないのです。所謂婚約もその一つです。どう云う事実が婚約になるかと云う事も突込んでみるとなかなか難しいものです。離婚と云う事件も私達の周囲にはゴロゴロしています。口約束だけだからとか、唯のミトメ印を押しただけだからと言つて安易に考えていると、とんでもない間違です。それが案外大きな事件となつて自分に降りかかつて来る事があります。又その反対に書類のない口約束や、捺印が実印でなかつたために思いもかけなかつた災難が舞い込んで来る事もあります。親や夫の死亡による遺産相続事件も世間には相当多いものです。犯罪の蔭に女あり、等と云う言葉もありますが、女の物慾や自分の子供しか目に入らないと云う女の宿命的不能が遺産相続事件には、特に目立つています。所謂井戸端会議でおしやべりした事が原因して名誉毀損罪で告訴された女もおります。他人の噂に興味を持つのも女の習性かも知れませんが、本当に注意すべき事です。

学窓時代のロマンチックな夢も決して悪いものとは思いませんが、学窓時代に実社会（真の姿）の究明や、又それに対処する心構への勉強等も（それは人間そのものの探究に通ずるものですが）怠つてはならないものだと思います。

私は自分自身の学窓時代を懐しく思いますが、どちらかと云えば悔まれてなりません。私は私達時代の女学校教育には何かが欠けていた様に思います。自分の不明を教育の故にする様ですが。

何か取止めもなく思いつく侭を書いて見ましたが、学窓におられる若い会員の皆様に聊かなりとも何かの御参考になれば幸の至りです。

最後に本紙をお借りして、特にあれこれとお導き下さつた丸山丈作先生、氷上貞子先生に心から謝意を表させて戴きます。

× × ×

養護施設から

木村　優子

（19エ）

突然御依頼をうけ「わかば」の紙面をおかりして、御無沙汰のおわびがてら懐しい東京の空やお友達のお顔を思い浮べつゝ拙い感想を書かせて頂く事に致しました。

ふとした動機から私共親子四人が徳島に移り住み、主人と共に徳島婦人ホーム愛児園と云う小さな養護施設で、指導員として働くようになつてからもう五年にもなりました。養護施設と云うのは、昔、養育院とか孤児院とか育児院とか云われていたものです。皆様の中には、こんな施設が東京都内は勿論、日本全土に沢山あると云う事も御存知ない方もあるのではないでしょうか。私自身、この事業に入るまでは「あしなが小父さん」とか「オリヴアートウイスト」、「ジエイン・エア」などの小説で読んで想像をしていただけで、実際には何も知る機会がありませんでした。およそ子供達の毎日の生活の場を学校と家庭と地域社会との三つにわけますと、養護施設はその家庭にかかわるものになるわけです。

昨年十二月東京で四十二ケ国から約二千人の参加者を集めて開催された国際社会事業会議に出席して私が一番感じた事は外国では一般の方々が深く社会事業に関心をもつて居られるという事でした。それは日本人の参加者が殆ど社会事業に直接関係のある方ばかりであつたのに、外国人の参加者の御職業が種々様々であつたのをみてもわかる事でした。色々と各国の方と語り合つた末、社会事業を自分の事としてすべての人が関心をもつのは、幼い時から宗教に根ざした奉仕の精神を知らず知らずのうちに教えられて成長する人々の自然な感情の発露だと知らされました。こゝで外国ではどのようにして世の中の人々が社会事業を援助しているかについて私が聞いた事を少し書いてみます。

先ずヴアランテイアと社会事業家と一般市民と云うものは相互扶助の関係にあるからはつきりと区別する事さえも難しいとの意見が外国人の間で一致していました。ヴアランテイアとは俸給をもらわないで公私社会事業に奉仕する人々の事で、日本では民生委員活動とかYMCなどの活動が主なものだと思います。社会事業家と云うのは、あらゆる社会事業施設で俸給を得て働く人々の事で、私のような者もその一員になるわけです。一般市民と云うのはその地区の住民で財政的又はその他の事で社会事業に関心を示し、又、示さねばならない人々でヴアランテイアと社会事業家をのぞいた市民すべてになるのです。

このような考えで、日本の現状をみると、この三つが区別出来ない程、緊密に結ばれていると思う意見には、一寸一致出来ないような気がします。未だに、社会奉仕などは、好きな人にさせておけば良いとか、私は自分の家庭だけでもなかなか充分に出来ない程忙しいのだから、社会奉仕などとても出来ないとか、何の報酬もなしに働く者はものずきだと云う考えをもつている方もあるそうです。ですから、社会事業家の待遇などは、専門職業であるにもかゝわらず全く世の中から見捨てられたものであつたり、たまたま青年達のヴアランテイアの団体が奉仕を希望しても、施設側で敬遠して断つたりする例もあるのです。これに比し、オーストラリヤでは、女子を対象とした将来のヴアランテイアを養成する、組織もあり、或病院では、その経営自体が、ヴアランテイアであるところもあるとの事でしたし、カナダでは、施設に附属した組織的なヴアランテイアをもつているところもあり、更に新聞やラジオを通じてよびかけると何百人もの申込みがあるとの事でした。

又、アメリカには、ヴアランテイアになりたい人を募集するヴアランテイア・ビユーローまであるそうです。フランスの学生たちは、大勢進んで施設の仕事を手伝うそうです。香港では、学生のヴアランテイアクラブもあり、又、若い実業家達が集つてる子供達に社会奉仕の指導をしたりしているとの事でした。

このような事を聞かされている時に、貧しい日本のような国こそ社会事業の発展はヴアランテイアや一般市民の援助なくしては出来ないのに、かえつて富める国々が完全な相互扶助の形で社会事業をより高度に進めているのはどうした事かと思いました。そして日本の出席者の一人がどうしたらそのようになれるかと質問すると、子供の時からの教育が一番大切だとの答でした。子供の教育は母親がしなければならない事は云うまでもなく、幸せな家庭の子供達にこそ利己心をはなれてより社会の為につくす心を養うべきだと思います私共の施設にいる子供達は心ある子は、本当に自分達が成長して社会に出て一人前になれた時には貧しくても惜しみなく社会事業のために援助する気持をもつていますまとまらない事を書きましたが思わぬ仕事と取組んで毎日を子供達の世話に忙殺されている私に、ペンをとる機会を見出させて下さつた事を感謝しています。皆様が共同募金でもなさる時は第六の女学生でいたころは全くの甘えん坊だつた私が、施設で幸い子供達の友となつて働いている事を思い出して下さつたら幸いです。

× × ×

× × ×

サンチヤゴ便り

城　愛子

（9エ）

Alessandri

南米の太平洋に面した細長い国チリーのサンチヤゴ市から御便り申しあげます。

一昨年の九月上旬に羽田を発つて、北南米の各地を廻り、約三週間の忙しい旅行の後、任地のサンチヤゴへ着いてからやがてもう一年半になります。

何百年間雨が一滴も降らず、緑の草木が一つもない土漠地帯の北部から、富士山そつくりの山がいくつもある青々とした火山湖地帯の南部まで、全長五五〇〇キロ余りのこの国は、全人口が七百万人位で東京都の人口よりも少く、その内約三百万が首都サンチヤゴ市に集つています。季節は東京と全く反対で、七、八月が一番寒く一、二月が真夏、暑いクリスマスお正月などどうもピンと来ずさつぱり気分が出ません。唯気候は非常によくて乾燥している為夏でもサラツとして気持よく、坐つていても汗がふき出て来る東京のむし暑さとは大変な違いです。

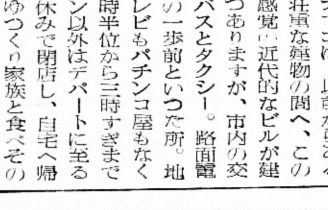
冬も周りの山は雪で真白になりますが、市内は零下になることは珍らしく、始終色々な花が方々の公園や庭に咲き乱れ、一年中各種の果物が豊富に出廻り、誠に自然の恩恵にめぐまれた土地と云えます。

今ここに駐在している日本商社は、三井物産、三菱商事、日本鉱業など五、六社、大使館と各商社の夫人達十四人で毎月親睦会をして居ります。去年は神戸商大山岳部のパタゴニヤ探検隊一行が来て成功を収めて行き、昨年末には石原慎太郎を団長とする商大生のスクーターによる南米横断の一行が来智、当地を出発点として元日の朝壮途に上りました。続いてこの一月中旬には中南米巡航の日本の日本船が寄り、三日間の展示中満員の盛況でした。日本の映画も、「蝶々夫人」や「地獄門」・「七人の侍」最近では「雨月物語」や「さよなら」・「長崎の台風」「黒船」などが来ましたが、一般にはまだ日本や日本人への認識は低いように思われます。

昨年十二月中旬に一週間程南部チリーへ観光旅行に参り、この一月末には北部の、丁度東京から鹿児島位の距離にあるアントフアガスタ市へ行き、銅山を見たり銅鉱石を日本へ送り出す工程を見たりして参りました。南部チリーは山・湖・滝・渓流など日本の景色によく似て居り、違う所はどこへ行つても人が実に少なく、放し飼いの牛・羊がいるだけで森閑としているのと、どこの道路もよかつた事でした。アントフアガスタ市は数百年間雨が降らない所なので、町外れの貧しい家並の中には周り壁のだけで屋根がなく、青天井を眺めて寝るという家が大分ありました。

首府サンチヤゴは、以前からある欧州風の荘重な建物の間へ、この頃新しい感覚の近代的なビルが建てられつつありますが、市内の交通は専らバスとタクシー。路面電車は消滅の一歩前といつた所。地下鉄もテレビもパチンコ屋もなく毎日十二時半位から三時すぎまでレストラン以外はデパートに至るまで皆昼休みで閉店し、自宅へ帰つて昼をゆつくり家族と食べそのあと少し休息して三時半位から又商店も会社もあき、七時位まで仕事をします。土曜は勿論半日、日曜日は大部分の人がカソリツク教徒なので午前中教会へ行き、あとは静かに安息日を過したり、若い人達は日本の野球の様にフツトボールを楽しんだり、郊外へドライヴしたり、プールや海岸へ泳ぎに行つたり、冬はスキーに出かけたりします。とにかく東京から見ますと、あのめまぐるしさや騒音のない、のんびりした刺戟のない街です。

東京から空路直行すれば四十時間足らず、新聞手紙類は空便なら五、六日で届きます。もしこちらへおいでになる方がございましたら、どうぞ御立寄りくださいませ遥かに皆様の御健康と会の御繁栄を御祈り申しあげます。



玉子人形講習中

写真　二C　斎藤様宅

ワカバ会館では

毎週火曜午後一時から！

御菓子と喫茶
福茶屋
三田店　港区　芝三田慶大前
（45）2938・6604
白金店　芝白金台町伝研前
（44）1627

百名様迄の
御宴会に
クラス会に
季節料理
寿司
蒲焼
よど料理
割烹
三田　四国町
（45）6772　6773
むらい

優生保護・労働災害
結核・生活保護・健保　各指定医
内科
小児科
産婦人科
外科
（病室完備）伊皿子医院
港区芝伊皿子町63番地
（手術応需）電話白金㊹0485番
院長　鈴木重明
4イ　鈴木文子

輸入生地と御仕立
洋装店　みよし
澁谷代々木大山町バス停前
PHONE（368）6698　2D 田畑

花と子供と

いわさき　ちひろ

卒業のときのアルバムに、お友達は落書きみたいにいろいろのことをかいて下さつた。いま私はそれをひつぱりだして読んでいる。二十年以上もたつているのに、これを見ていると　きのうの事のようで、お友達のその少女らしいようすがまざまざと目に浮ぶ

「テーチャンいつまでも可愛くね
そして将来画家の大家になつたら私にも一枚ちようだいね」
「貴女はきつとおとなしい良妻賢母よ」
「スキーも燕岳登山も一生忘れられないわ」
「適応　遠足いつも十里だ　つたわね」

等々、私はわけもなく胸があつくなる。そして二十年、私はささやかな絵描きなのである。画壇のすみで、いや、いわゆる画壇とは関係のない地味な童画の世界にふみこんで、これが私の一生の仕事だろうと思つて励んでいる。南向きの仕事場は庭に面していて、春あさくは沈丁花がかおり、やがてあじさいが梅雨に濡れる。ダリア、ひまわり、ききよう、小菊、そして霜枯れの庭に万年青の赤い実をたのしみながら、私は一年中、それこそ朝から晩まで、この仕事場にすわつている。まるで労働者のようにえつしえつと仕事なのである。

この私にも、一人の可愛いい息子がいる。もう満七才を過ぎたその息子は、傍若無人なふるまいと、又たとえようもないあどけない息づかいで仕事場に闖入してきてはは、度々仕事を中断させてしまう。私は思わずこわい顔をしてしまうこともあるけれど、このしつけのうまく出来ていない息子の動作のおもしろさは、何と童画への意欲をかきたたせてくれたことか。私の描く子供は、そのまゝうちの息子なのだそうである。画を見ているだけで、うちの子供の年令が解ると云う人さえある程だ。とくに写生をしているわけでもないけれど、これは子を育てている母親画家の必然のことかも知れない。花と子供とその群像と…甘い母親の感覚ながら、私の童画への夢はまだ限りない。

俳句

歳末の浅草吟行六句

仁王門潜り抜けたる懐手
仲店の土産嵩ばる空つ風
忠臣蔵ののぼりはたはた年暮るゝ

某劇場にて

決まり大仰舞台は今し雪さかん
老ファン歳末逃るゝ小銭持ち
アンコール横長椅子にトンビ跳ね

雑詠

一望杉苗冬日吸ふさま魔のカーペツト
輪禍とやネオン崩るゝ氷雨の玻璃
朧にて列車旅愁の灯を連らね
雪降る日豆腐屋ひとり来てくれし
難じては省し堂々めぐり主婦等のどか

（二、B　林 [illegible]）

桃咲いて下り立つ庭に言葉なし
うぐいすや生きて甲斐ある寺住い
同年の寄れは温泉の話春の雨
ヒヤシンス小雨の夜をたのしうす
うぐいすや飯ほかほかと朝の膳

（二、C津田）

せせらぎの音のみ春を伝へまし
霜柱くづれて音を残しけり
梅見客皆つつましく見られけり
咳こみし母にかのごと言ふまじく
蕗のとうぐんぐんのびて卒業す
起さるる日の重なりて春ねむし
首だけの案山子に夕陽さだまらず

（四ア溝）

放談

アパート女のひとり暮し

結婚生活にはいやあな事が、一パイあるが、ひとり暮しには、いい事もないかわりにいやあな事は何んにもない、たまにいやあな事があるとすれば、酔つぱらいの夜の訪問者か電話位、電話は鳴るだけ鳴らしておけはよい、訪問者はドアを開けなければよい。たとえば或夜お風呂に入つている時誰か来る「コツコツ」「だあれ」「某ゝ」「あゝ今お風呂、頭あらつてるんだから駄目よ」「あゝお風呂？背中流してあげようか」こゝで彼は声をはずませる。私「駄目よ」それでおしまい。三十分も寒いドアの外へ放つておけば「つめたいなア」とその中酔もさめてくる。私はお風呂の中で首をすくめ　ヤリとする。暖かくして帰す相手なんかめつたにお目にかゝれるものではないのが女のひとりぐらし、世間でとや角云はれる程のものではない。

おわり。

× × ×

桐の花の咲く頃

中川一郎　高9―6

長い冬もいつの間にか過ぎ、再び春がめぐつて来た。暖かい日だつた。私は、ふと何かに誘われて授業中の教室からぬけ出し、学園の近くにある小高い岡にのぼつた。私はここに来て、目の下にひろがる町の風景を眺めるのが前から好きだつた。もう二年以上になる。この岡もすでに瑞々しい新緑になり、その真下にある病院の白い壁を爽やかな五月の色彩で染めた

私は、ある木の下に腰をおろし地面から立ちのぼる春の香を嗅いでいた。私はふとその時、何か忘れたものを思い出そうという衝動に駆られている自分に気がついた。私の五感が一せいに働き出した。私は改めて、自分のまわりに目をやつた。その内に、私は記憶の隅つこの方に小さくかたまつていたある記憶がだんだん大きくなり、ついに頭一面にひろがつて来るのを感じた。あたりには新鮮な桐の花の匂いが漂つていた。なつかしい遠い夢を再び味わしてくれる様な限りない温かさをいだいている匂いだつた……。

私は当時、まだ小学校に入つたばかりのおつかない喧嘩好きな子供だつた。東京で戦災に遇い、父の田舎へ疎開し、その土地の小学校へ通つていた。小学校は山のふもとにあり、学校まで美しく出来た道路があつたが私はわざわざでこぼこな山裾の道を通つて行くのが好きだつた。その道の中程のところに大きな一本の桐の木があり、毎年春になると、美しい花をたくさん咲かせた。私はこの木の下を通るのがとても楽しみだつた。あれはたしか私が小学校三年の時だつたと思う。学校の帰りに先生が貸してくださつた本がとても面白かつたので、歩きながら夢中になつて読んでいたが、ふと桐の香がしたので本から目を離しあたりに目をやつた。いつの間にあの桐の木の下まで来ていた。丁度落花の時節で淡紫色の長い筒を持つた花が一面に道の上にこぼれていた。黒地にひろがる薄紫の散らかし模様は何とも云えない程美しいものだつた。見上げると真直ぐな太い幹から放射状に出ている枝に、青々と茂つた大きな三角型の葉の間から穂の様に薄紫の花が塊り合つているのが見えた。とても美しく豪勢な感じがした。

通る時落ちることなし桐の花

歳時記にこんな句が出ているがほんとうに何時の間にこんなに落ちるのだろう。勿論、その頃は歳時記など知らなかつたが、たゞいつの間にか落ちている桐の花が不思議でたまらなかつた。枝に見上げる花も美しいが、足下に散り敷く花は一層美しい。かゞんで手にとつて見ずにはいられなかつた。鼻にあてると何とも云えぬ清々しい花の香気に恍惚とした。これこそ清純な香り　というもの　なのだろう。私は花瓣が筒状をなすその核との接合部にそつと舌をあてがつた。するとほのかな甘さが感じられる。こうして桐の花の芳香と甘さを満喫したのち、五枚に分れた花瓣を一つにつまんで「ぷつ」と息を吹き込んだ。すると花の袋がぽつかり脹らむ。次に息を吸いこむとそれがぺちやんこに萎んでしまう。大変面白かつたので息を入れたりすつたりしている内に花瓣の袋が「ポン」と弾けてしまつた。その音がとてもかわいらしかつたので同じ事を何度も何度もくりかえし、新鮮な花瓣の感覚を思う存分楽しんでいた。しかしその楽しい夢も、うしろからの大きな声で一ぺんに消えてしまつた。ふりかえつてみると一年上の生徒が五六人、時ならぬ形相をして私を睨みつけていた。私は一瞬本能的に危険を感じ逃げ様としたが、その時にはすでに囲まれてしまつていた。私は覚悟をきめ、相手の顔を順々に見まわしたがその中に昨日喧嘩をしてその手に噛みつき、怪我をさせてしまつた子の兄がいるのを知り、万事了解出来た。

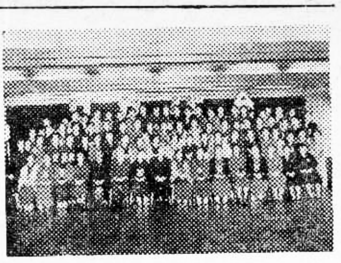
私はその頃、村一番の餓鬼大将でいつも喧嘩をし、相手を泣かせるのが好きだつた。決して負けた事がなかつたので一層図にのり、大将と自認し多くの悪童をしたがえていた。私の姉などよく母のかわりに父兄会に行つたが、帰つて来るたびに顔を赤くして私を叱つたものだつた。私は花の香をかぐのが好きだつた様な反面、こんな面もあつたのである。

多勢に無勢。勝目は全然なかつたが、今まで負けた事がないから今度も負けつこないという自信でその足に絡みついていつた。が、いきなり後から外の者に頭を殴ぐられ、離れたところをぐんと前からおされたので、あつという間に地面に倒れてしまつた。それから長い間殴ぐられたり蹴られたりしたが、ふと気がついてみるともうあたりには誰もいず静かになつていた。私はその時、生れて始めて敗北の屈辱を味わされた。すると突然あるいい知れぬ衝動が喉にこみあげて来た。私は泥だらけになり倒れたまゝ大声で泣き出した。その時まで私はなぐられても決して泣く事がなかつたのである。あんなに激しく泣いた事など前にも後にもあの時一回だけであつた。しかし、そんなに長く泣いてはいなかつた。私は倒れたまゝ涙を手でぬぐつた。その時ふと甘い香が土の香と一緒に私の鼻を襲つてくるのを感じた。涙でよくわからなかつたが丁度顔の前に細長い紫色が地面に私と同じ様に横たわつているのを見た。私は痛さもくやしさも忘れて、その美しい色を見守つていた。私の好きな桐の花だがずいぶん昔のほとんど忘れかけた思い出である。私は、今日偶然、この岡で桐の花と、地面からたちのぼる土の香を嗅ぎはからずも思い出したのだつた。そして幼い時の記憶はなんて美しく、大切なものであるかを悟つた。折しも時計台から三時を知らせる鐘が鳴つて来た。私は非常に貴重な体験をしたかのように感動してその岡を降りていつた。風もなくひざしもまだ暖かかつた。

卒業廿周年

一回合同クラス会

小池豊子（1C）



時　三十三年十月廿六日
所　産経会館新東京グリル
出席者　先　生　十四名
　一回卒業生　六九名

開会は午前十一時からと云うの夜の九時までは帰宅出来ない旨を家人に告げて、家を出た。今日一日の自由を心ゆくまで獲得しようと云う魂胆なのだ。

あいにく朝から時雨れてうすら寒い。産経会館のエレベーターの昇降口には迷子の来客の為に篠塚さんが立つて居られた。九階で降りて雨靴を揃げている時ポンと肩を叩く人がある。ふりむくとそれは大橋さんであつた。目白駅での邂逅以来約四年振りである。なつかしさがこみあげて来るロビイから中に入ると中々の盛会らしく、賑やかに今日のお客様が集つて、楽しい雰囲気である。そこはかとなく二十年の昔に甦る名前は知らなくても顔は皆覚えている。伊豆山からはるばる御上京されたと云う丸山先生が片方で団らんされていらつしやる。名もなき私だけれど御挨拶に伺う。

「あんた三木さんだつけな」

「お父さん、勧業銀行の？」

どうも同姓の方がいらつしやるらしい。勧業銀行だつたら今頃はこんなにピーピーしてはいないのに司会の関さんによつて、間もなく開会、簡素な西洋料理の合間に先ず丸山先生が挨拶に立たれる。六法全書と世界地図は座右に置こうということが印象に残る。私は不肖の生徒で未だに果さない。バイブルと論語は必ず読む様にと仰言つた国語の伊井先生は他界されてこゝには不在である何時も温和であられた植物の和田先生も、担任の桜井先生も、今日の集いを何処かで見守つて下さるのであろうか？次は確か深井先生、ピリピリして生徒の心胆を寒からしめた点氷上先生と双璧であられたのはつい昨日の事ではなかつたかしら。森先生、永田先生と続いたように思う。A組を代表して大橋様のユニイクなお話、B組は誰であつたか？　C組では小久保節とでもいい度いさばけたお話に皆笑つて了う。D組は高木様、真面目な人柄そのまゝな話、E組の土岐様の旦々として渋いお話、一々具体的にお伝え出来ないのが残念です。西宮からはるばる今日の為に上京された辰馬様も一言、その後記念の花瓶が分けられ、記念撮影をした時は台からあふれてあやうく落ちそうであつた。行事の後も席を変えて名残はつきず。そこを辞したのは夕暮近かつた。

信子様をいたむ

太田満里（10オ）

「一月には退院出来ると思つたのにこの分では何日帰れるかわからない。この葉書を何度も休んでやつと書けた。淋しいからお便り丁戴。」

と云う便りを手にしたのが二月十三日何故か掃除をしつゝ涙をふきました。昨年暮何を云つても差支えない親しい友数人で会食をして楽しく過し、新年も変らない年賀状をもらつたのでまさか入院とは思つても居ませんでした。お正月にはきつと遊びに来る様にとかわしていたものゝ約五十㌔の距離はそうも行かず後で御家の方に伺つたら待つてシビレを切らして前記の葉書を書いたものとわかりました。そんな事なら何度も行つて上げたのにと後悔ばかりです。でもその翌日とりあえず飛んで行つた時は大した衰弱もなくしつかりしてましたが、大変呼吸が困難で、今までに弱音をいわなかつた人だけに、食事も通らない睡眠も駄目と云われると胸がつまる思いでした。「大丈夫」と元気を付けて又の日を約して帰り早や一週間目に訃報を聞き本当に呆然として終いました。

お通夜のお棺の写真の前では二人のお子さんをかなしませ度くないと思つて我まんしてた涙も体がふるえて泣けてどうする事も出来ません。同年の同名の貴女と私の子この偶然は永久に貴女を私に残してくれました。名簿順もお席もいつも並び、外に出ては音楽会も映画もいたずらも一緒。卒業後実家のお母様の先生に編物を習いに行つたところ幼稚園に行つた姫御さんは大学生、その二十年間あちこちと転任なさつたけど遠い時はお便りを欠かしませんでした。その間ほんの少時鎌倉へ来られた時は戦後の苦しい時代で薪を背負つて持つて行つたり、御子さんに配給の大豆粉を焼いて食べさしてお腹を悪くさした事もつらい思い出になりました。御主人の社会的地位が何うあろうとも貧富の差にこだわらず話せる宝石の様な級友の一番良い宝石を失なつた思いでございます。

告別式には東京在住で至急連絡のついた級友十四人と高柳先生もお別れに見えられて「ナミコ」への最後のはなむけになりました。

群　和子さんを悼む

広瀬久子（11エ）

和子さん！余りにも貴方の御訃報は意外過ぎました。御近所の告別式から帰宅して無常感に呆やりしていた私に福井さんからの御通知を半ば上の空で読んでいるうち、貴女の御急逝とあつて、瞬間ドキンと心臓が止つた様でした。真実だろうか？どうしても実感が、湧かない。死を考えるには未だ未だ人生多忙な私達の中でも、時に健康的で、ハリ切つていらした貴方が脳溢血で御他界とは…私ならずとも信じられないのが、当然ではないでしょうか。

制服の楽しかつた時代は二昔となりましたが、貴女とは入学以来お神酒徳利でしたね。ライバルというには貴女は遥かに優秀だつたけれどそのファイトにどれだけ私は励まされたか津田塾と聖心に同時合格、卒業式には総代として答辞をおよみになつた才媛の貴女！又スポーツもバスケツトに水泳にその八頭身で良く活躍なさつた。御結婚後は最愛の御主君のことなきベターハーフとして結核予防医学相談所を発展させていらした貴女。私の十七貫を「クリちやん気をつけなさいよ。」と心配して下さりながら御自身も最近は十五貫五百の中年肥りになつて来たけれど、総理大臣以外の各省大臣を兼任で怠惰期どころでないと元気一ぱいのお手紙下さいましたね。あれは確か御逝去一ケ月前の二十二号台風の夜、十和田湖御旅行の背の君を案じられてのやさしいお便りでしたがそれが最後となりました。

御両親ゆづりの優秀なおかわいいお子様を四人もお残しになつて嘸かしお心残りの事でしよう。御主人様のお話によりますと日頃手紙も写真も又身の廻りも総てきちんと整理されてあり、あの御最後の時はお姑様の腕の中で私など拝見した事もない様な、赤児が夢みる様に美しい笑顔で息をお引取りになつたとか、御夫君の大黒柱を失つてのお嘆きで私は始て実感となり声をあげて泣きました。東京と北海道では永遠のお別れと云うのにお通夜にも御葬儀にも参列出来ず、心ならずもわが家の仏前に貴女の御冥福をお祈りして居ります。和子さん！どうぞお心安らかに天上界にあつてお子様方の将来をお守り下さいませ。

支部だより

鶴見若葉会

かねてより皆様から御希望のあつた、当地区鶴見若葉会発足の準備会を四月十二日に開きました。（出席者十五名）次回は今秋十月末日頃に盛大に開きたいと存じますので、横浜、川崎、其の他神奈川県下の皆様、お誘い合せになつて是非御出席下さいますようおねがいいたします。係四オ法専八ウ

宮城十一ア池田

大分より　（二B　有木）

十月廿六日　松田先生のお宅でワカバ　大分支部結成。松田　先生は「方言の旅」のラジオ放送などなさり大変お元気です。

連絡先　大分県鶴崎市三佐
有木　綾子

お詫び

この度の会誌に沢山と御投稿下さいましてありがとうございました折格お送り下さいましたのに全部をおのせ出来なかつたことを残念に存じますとともにおわび申しあげます。次回にまわさせていただきます。